

平成19年草津市における 平成19年5月27日(日) 9:00~12:00実施 洪水避難訓練

かわら版

草津市では、5月1日に各家庭に洪水ハザードマップが配付され、これにあって、5月27日に洪水避難訓練を行いました。この訓練では、洪水避難訓練、水防訓練、行政内情報伝達訓練の他、笠縫東小学校では洪水に対する体験と学習コーナーが設けられ、市民や防災に関わる行政関係者が洪水が起こったときの「避難」や「備え」について多く学ぶ機会となりました。

洪水避難訓練 (参加者: 58名)



- 事前をお願いしている洪水避難訓練モニターの方を対象に行われました。
洪水を想定し、広報車などによる避難に関する情報をモニターの方が受け、洪水ハザードマップを活用し、避難場所まで徒歩で避難する訓練でした。

行政内訓練情報伝達訓練



- 行政内（国土交通省琵琶湖河川事務所、滋賀県、草津市）において、雨量や水位など避難の目安となる洪水の情報を入力し、関係機関に正確かつ迅速に伝達する訓練を行いました。

洪水に対する体験と学習 (参加者: 約80名)



体験と学習の様子

水防訓練 (参加者: 144名)



- 水防技術専門員 松永氏の指導のもと水防団のみなさんが、水防工法の基礎となる土のうづくりや、堤防からの越水を想定した土のう積みの訓練に取り組みました。

①水中歩行体験



- 洪水中の移動の困難さや危険性を体験するため、水を張った水路を荷物を背負って歩きました。

②豪雨体験



- 豪雨体験施設で豪雨を体験しました。

③救助補助体験



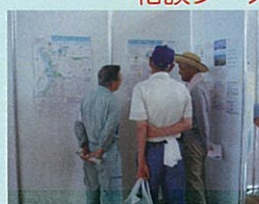
- 救援を求めるときの手段である声や笛を使って、音の伝わりがどれほど違うのかを体験しました。

④避難所体験



- 避難所生活での不便さについて体験しました。

⑤洪水ハザードマップ 相談ブース



- 5月1日に配布された洪水ハザードマップについての疑問などにお答えしました。



災害応急支援車

平成19年 草津市における洪水避難訓練

を振り返って 意見交換会 の内容

参加者の声

避難情報はハッキリ明確に！

- 今回の訓練では、避難情報の内容がわかりにくかった。避難に関する情報伝達は、はじめに“こうだ”と言うことをはっきりと伝えてほしい。
- 小学校2年生の子供と一緒に避難訓練に参加したが、もし小さな子供と一緒にだったら大変だと思った。



コメンテーターの方々

市政の第一は危機管理

草津市 伊庭 嘉兵衛市長

- 今日の訓練では、広報車の放送が聞こえにくいなどの課題が明確になり良かった。市は、来年コミュニティFMを開局する予定。今回の訓練で課題とされた、避難情報などの取得に役立てていきたい。

洪水避難訓練をふりかえって

140人以上が参加した訓練

大きな成果

京都大学防災研究所 寶 馨 教授

- 洪水ハザードマップはあくまでもガイドライン。マップが全てではない。普段から道路が低いなど危険なところを見ておいてほしい。



意見交換会の様子

地域で子ども達の安全を確保する

国土交通省琵琶湖河川事務所 津森ジュン所長

- 大雨が、昼間に降った場合、学校にいる子ども達の安全について、先生方の判断と行動が非常に重要となる。このことを是非、地域全体で話し合い、考えてほしい。

行政と住民が共に備える

滋賀県土木交通部 勢田 昌功技監

- 滋賀県では、パソコンや携帯電話を通じて雨量や水位についての情報発信を行っている。地域のみなさんも「情報を取りにいく」ということをしてほしい。

水害から身を守るために あなたの力が必要・みんなの 力が必要

水防技術専門員 松永 正光マネージャー

- 避難情報の伝達方法として、半鐘は効果的である。またラジオも大事な情報源である。洪水ハザードマップは、もっているだけではだめで、目に付く場所に張って眺めることをしてほしい。

平成19年 草津市における洪水避難訓練にご協力いただきましてありがとうございました。

今回の訓練の成果や課題、参加者のみなさんからのご意見などを水害に強いまちづくりに活かします。
これからも、地域の防災についてみなさんのご協力をよろしくお願い致します。

■ 主催：
琵琶湖湖南流域水害に強い地域づくり協議会
国土交通省琵琶湖河川事務所、滋賀県、草津市